

令和 8 年三重県議会定例会 予算決算常任委員会

提 出 資 料

	頁
○令和 7 年度マネジメントシート	
1 こころの医療センター院長	2
2 一志病院院長	4
3 病院事業庁長	6

[参考]

○令和 8 年度マネジメントシート	
1 こころの医療センター院長	8
2 一志病院院長	10
3 病院事業庁長	12

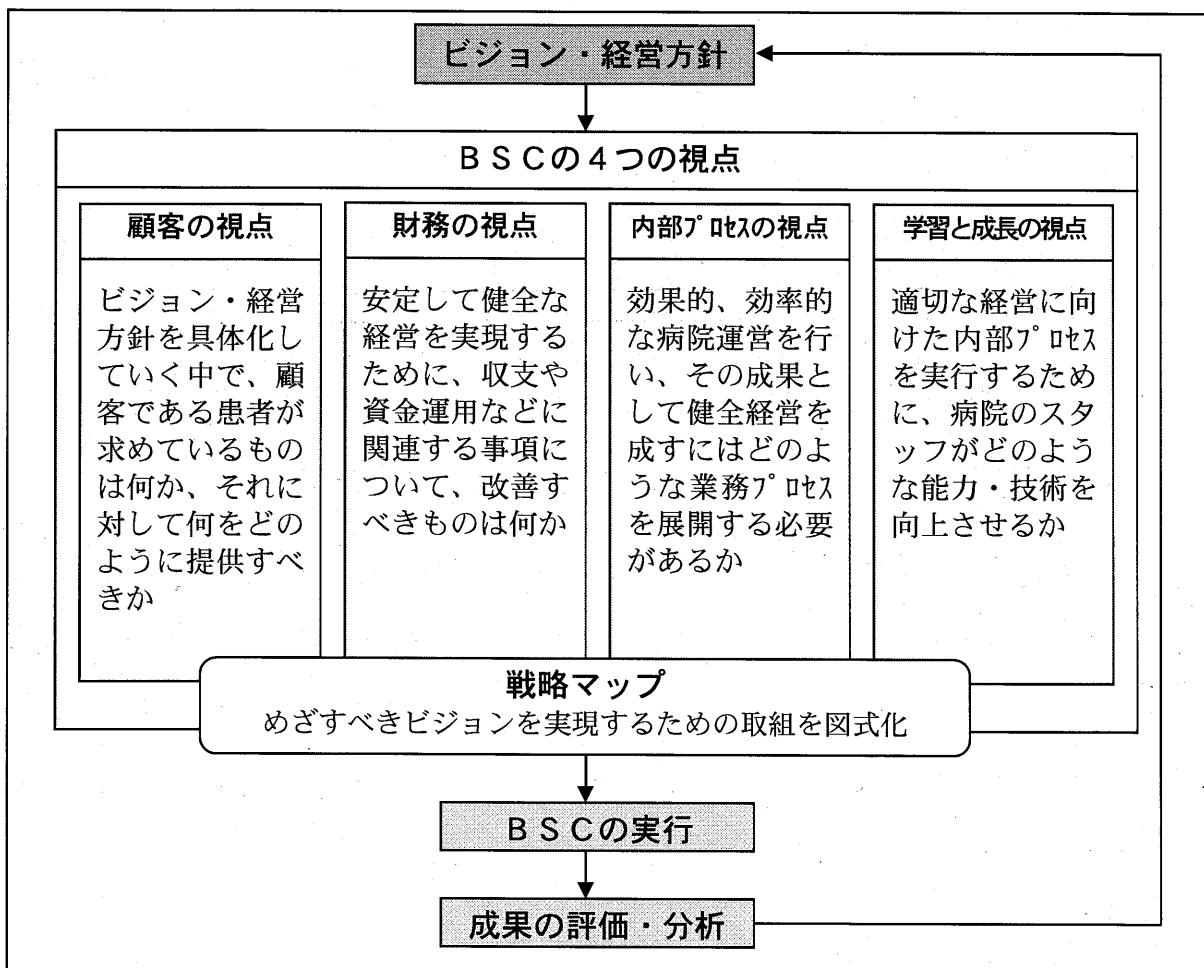
令和 8 年 1 0 月 1 日
病院事業庁

病院事業庁長及び各病院長のマネジメントシートについて

病院事業庁では、平成 14 年度から病院運営を行うにあたって、戦略を具体化し、実行するためのマネジメントシステムである「バランス・スコアカード（B S C）」を導入し、病院事業庁長及び病院長が 1 年間の運営方針と主な取組を 1 枚のシート（マネジメントシート）にまとめて進捗管理を行っています。

《マネジメントシートの構成》

- ・「ビジョン」を掲げるとともに、そのビジョンを達成するための「経営方針」を策定しています。
- ・ビジョンを達成するための戦略目標や業績評価指標を、B S C の考え方に基づき、4 つの視点で分類しています。



令和7年度 こころの医療センター 院長マネジメントシート

病院名	こころの医療センター						
ビジョン	県民の皆さんのより良いこころの健康をめざし、精神科疾患があっても地域で安心して暮らせるよう、医療のサービスを提供します。						
経営方針	・精神科の医療倫理を遵守し、患者や家族の皆さんの視点に立った良質で満足度の高い医療サービスを提供しながら、健全な病院 ・政策的医療や専門的医療、災害医療の取組において、県内の精神科医療における中核病院としての役割を担い、県の精神科医療						
区分	経営シナリオ	目標	主な成果 (重要成功要因)	業績評価指標	R6 実績	R7 目標	R7 実績
顧客の 視点		◎重点取組事項	満足度の高い医療の提供	患者満足度 (%)	87.5	95.0	93.5
			新患者の寛解率の向上	新患者の寛解率 (%)	70.7	60.0	73.8
		早期社会復帰の推進		デイケア・ショートケア延べ患者数 (人)	9,558	12,500	9,269
			地域生活支援体制の充実	訪問看護延べ患者数 (人)	3,901	5,000	3,467
				在院3か月以内退院率 (%)	81.6	77.6	83.3
				家族等にむけた研修会の開催件数 (件)	26	24	26
		社会ニーズに応じる精神科専門医療の提供	精神科救急・急性期医療の推進	精神科救急患者・緊急対応患者受入件数 (件)	497	470	478
			地域医療機関との連携	障害福祉サービス事業所等との連携取組件数 (件)	9	9	9
				医療機関訪問件数 (件)	242	200	209
				YMSC新規相談件数 (件)	209	200	229
			精神科早期介入の推進 県民ニーズの高い精神科医療の取組	アルコール依存症入院患者数 (人/日)	18.2	30.0	17.0
				認知症入院患者数 (人/日)	29.3	40.0	30.5
				こころしつとこセミナー開催件数 (件)	32	35	35
財務の 視点		◎重点取組事項	臨床・経営指標に基づいた病院運営の確立	臨床・経営指標の追加・充実	充実	充実	充実
		医業収支改善		経常収支比率 (%)	83.4	97.4	94.4
				医業収支比率 (%)	52.7	65.3	52.8
				1日平均入院患者数 (人/日)	193.7	237.0	191.4
内部プロセスの 視点		◎重点取組事項	経営改善の方向性決定	病棟機能の再構築	検討・実施	検討・実施	検討・実施
		医療体制の構築	常時急性期患者受入体制の確立	措置鑑定対応件数 (件)	80	50	119
			医師の充足	医師充足率 (%)	83.1	100.0	90.4
			看護師の充足	看護師充足率 (%)	100.0	100.0	99.4
			災害時医療体制の確立に向けた取組	災害訓練実施回数 (回)	1	1	1
		精神科倫理に則った病院運営	医療安全・感染管理の徹底	危機管理研修等参加率 (%)	100.0	100.0	99.8
学習と 成長の 視点		◎重点取組事項	コンプライアンスの徹底	倫理委員会(研修)開催数 (回)	2	2	2
		専門性の向上	専門能力を身につけた職員の増加	人材育成研修回数 (回)	6	6	9
		三重県の精神科をリードする取組	精神科医療スタッフの育成	研修医・看護実習生等受入延べ人数 (人)	1,663	1,900	1,483
		風通しの良い職場づくり	職員満足度の向上	職員アンケートの「満足度」の設問での肯定的な回答割合 (%)	70.3	-	-

運営を進めます。 をリードします。		
アクションプラン	実績評価	次年度への課題
- 患者様アンケート等を通じた患者ニーズの把握、サービス改善の取組 - ホームページの改善(見やすさ・分かりやすさの向上、重要情報の適切な配置等) - 早期、急性期医療の充実 - 地域生活支援体制の推進 - プログラムの充実により集客を図る取組 - 関連機関への周知の見直し - 利用者の地域生活を支援していくための質の確保 - 事業の方向性の検討 - 地域の関係機関との連携及び日中活動支援等の充実 - 家族にむけた研修会の着実な実施 - 精神科救急患者、緊急対応患者受入体制の確保 - 地域連携ミーティングの開催及び協働事業の開催 - 関係性の深い医療機関との連携強化 - 当院の積極的な売り込み - 早期介入拠点(YMSC-MIE)の充実、AYA世代病棟との連携 - アルコール相談の実施、訪問を通じた他医療機関との連携 - ホームページや広報誌による情報発信、短期入院などの取組の検討 - 認知症相談の実施、訪問を通じた他医療機関、施設との連携 - 認知症治療のイメージ、予約の取りやすさのアピール - 精神科医療取組の広報・啓発、講師の育成等 - 臨床・経営指標の追加等、データ分析 - 経営会議等での周知や話し合いによる意識の向上 - 精神科特定入院料の算定 - 病床コントロール等による入院収益の向上 - 収支改善に向けた病院機能の検討 - 検査件数や作業療法件数等の増加の取組 - 経費の削減 - 精神科専門治療の充実 - 病棟機能の明確化と病棟間の連携 - オーダードーズ対応など他医療機関、施設との連携 - 新患予約受入体制及び緊急受入体制の強化、クロザピン治療の推進 - 県健康推進課・保健所等との連携、院内救急体制整備 - 研修や資格取得へのバックアップ体制を強化するなど医師に魅力ある病院づくりの取組 - 育児・介護のための休暇等が取得しやすい勤務環境を整備するなど魅力ある病院づくりの取組 - 震災、感染症及びサイバー攻撃に係るBCPマニュアルの実効性を高める取組 - 医療安全研修の複数回実施、未受講者への受講勧奨 - 職員の精神科医療における倫理意識向上のための研修の実施 - 職員のスキルアップのための体系的な院内研修の実施 - 職員表彰制度の継続実施 - 院内受入体制の整備 - 研修プログラムの見直し、充実 - タスクフォースによる改善の取組	- 病院のホームページについて、診療情報の迅速な反映、適時の更新を心掛けた。患者サービス向上タスクフォースでは携帯電話の自己管理やWi-Fiの導入、思春期医療情報の充実を図った。 - 寛解率の向上に向け、入院中に付加価値のある支援を行い、目標を達成した。 - 企業等に周知しつつ、プログラムの企画・工夫により利用者増を図ったが、継続利用患者の利用が減少する状況があった。 - 限られた職員で、効率的な訪問や複数訪問、多職種訪問等により利用件数の減少緩和を図ったが前年度実績を下回った。 - 関係機関と連携した退院支援や多職種が連携し、病状に応じた適切な治療を行うことで、目標を達成した。 - 認知症家族教室8回、アルコール家族研修会12回、クラフト6回を実施し、目標を達成した。 24時間365日の緊急入院受入体制により、積極的に患者を受け入れたことにより、目標を達成した。 - 地域の関係機関との連携会議や、実務者研修会の開催などにより、目標を達成した。 - 積極的に医療機関訪問を行い、目標を達成し、地域からのニーズに応えられる態勢を整えた。 - 若年層やその家族等からの相談への対応や、学生、教員、保護者や関係機関を対象に研修会を実施し、目標を達成した。 - 関係機関との連携強化タスクフォースで、病院や関連施設に訪問し当院の治療を説明したが、紹介される身体疾患患者等が少ない。 - 関係機関との連携強化タスクフォースで、地域包括や関連施設に訪問し連携強化に努めており、目標未達成だが昨年度実績は超えることができた。 - 地域連携への申込以外に、病院全体で個々の職員が外部の依頼に対応しており、目標を達成した。 - 経営改善プロジェクトでテーマごとに話し合いを重ね、院内の経営会議や供覧で、自院や他病院の各種指標を示すことにより、職員の意識を高めた。 - 物価高や人件費上昇により支出が増加し、医業費用は前年度比2.4%増加したが、タスクフォースでの取組もあり医業収益も2.7%増加し、医業収支比率は令和6年度より0.1ポイントだが改善した。 - 地域連携の取組や緊急受入体制強化を図ったが、適切な治療を行うことで平均在院日数が減少している。目標は達成できなかったが、新患予約枠の拡大・改善、関係機関との連携強化等により増加傾向にある。 - 病棟機能に応じた効果的な病床稼働を行った。 - 積極的に受け入れる体制を維持することで、目標を達成した。 - 大学医局との繋がりを活かし医師の確保を図ったため、目標達成はしなかったが昨年度より増加した。 2交代勤務の導入などの働きやすい環境づくりや、就職説明会・OPEN HOSPITALの開催等の担い手確保に取り組んだことで、ほぼ目標を達成した。 2月に震災に係るBCP訓練を実施した。 - 医療安全研修(2回)及び感染対策研修(3回)を実施し、職員の危機管理意識の向上に取り組んだ。 - 虐待防止対策にかかる研修(e-ラーニング)を実施し、目標を達成した。 - トピック研修4回、出張報告会2回、クラフト研修3回の計9回を実施し、目標を達成した。 - 積極的な受入れを行ったが、看護学生数自体の減少等の影響もあり、前年度実績を下回り、目標を達成できなかった。 -	- アンケート結果や他病院での取組を参考にサービスの改善を図るとともに、ホームページの改善を継続して実施する。 - 引き続き、急性期医療の充実を図りながら寛解率の向上を図っていく。 - ニーズに応えられるようプログラムを充実させるとともに、当事者や関係機関に取組が伝わるよう、情報を発信する必要がある。 - 効率的な運営により空いた時間に新規利用者を入れつつ、複数訪問でのケアの充実を図っていく。 - 引き続き、関係機関との連携及び日中活動等の支援の充実を図る必要がある。 - 職員に対する家族支援の研修を充実するとともに、情報発信していく。 - 引き続き、三重県精神科救急医療システムの支援病院として受入体制を維持していく。 - 引き続き、地域の医療機関や福祉施設等の事業所との連携を深める必要がある。 - 引き続き、病棟連携に取り組み、患者紹介の受入れを進めていく。 - 早期介入拠点(YMSC-MIE)の充実を図るとともに、AYA世代(思春期・若年層)病棟とも連携を深めていく。 - タスクフォースの取組を継続するとともに、情報発信や外来の体制を整備するなどの新しい取組を検討する必要がある。 - タスクフォースの取組を継続するとともに、認知症治療や予約の取りやすさについて情報発信を行う必要がある。 - ホームページでの広報などを改善する一方で、各テーマにかかる講師の育成を続ける必要がある。 - 引き続き、臨床・経営指標に基づいた病院経営を進めるとともに、院内の経営会議等での周知や話し合いによる意識の向上を図っていく。 - 診療報酬改定への対応を行う。また、病院機能の検討、病床コントロール等による入院収益の向上、検査件数や作業療法件数などの増加、経費の削減に取り組む必要がある。 - 関係機関との連携のほか、適切な退院後の地域移行支援の実施、外来の新患枠の運用改善についても取り組む必要がある。 - 今後の地域医療構想の動向を踏まえ、病院のあり方について検討していく。 - 院内の受入体制を常に維持するとともに、保健所等と連携し、積極的な受入れを継続する。 - 研修や資格取得へのバックアップ体制を強化するなど、医師に魅力ある病院づくりを進めていく。 2交代勤務の本格導入を進めるなど、看護師にとって魅力ある病院づくりを進めていく。 - 今後も実効性のあるBCPマニュアルとなるよう、訓練を行っていく。 - 引き続き、未受講者への声掛けを行う必要がある。 - 引き続き、ニーズに応じた研修を実施し、職員の倫理意識の向上を図る必要がある。 - ニーズに応じた研修を実施し、職員のスキルアップを図っていく。 - 県内の精神科医療水準の向上のため、実習生等を積極的に受け入れていく必要がある。 - 今年度は職員アンケートを実施する。職員が働きやすい職場環境を目指していく。

病院名	一志病院						
ビジョン	安心してこの地域で生活し続けられる医療を提供し、全国の医療過疎を解決する病院のモデルになります。						
経営方針	・あらゆるニーズに対応するプライマリ・ケアを実践します。 ・県民の皆さんが信頼し、自慢できる病院を目指します。 ・プライマリ・ケアを担う人材を育成します。 ・職員の意欲と能力の向上に努めます。						
区分	経営シナリオ	目標	主な成果 (重要成功要因)	業績評価指標	R6 実績	R7 目標	R7 実績
顧客の 視点	全国的医療過疎を解決する病院のモデル 県内への医師等の定着 プライマリ・ケアの実践 県民の皆さんが信頼し、自慢できる病院	プライマリ・ケアの実践 (全人的な医療サービスの提供)	かかりつけ患者の増加	1日平均外来患者数(人/日)	51.9	65.7	54.1
			入院患者の増加	1日平均入院患者数(人/日) 【病床稼働率(%)】	32.4 【70.5】	37.0 【80.4】	32.5 【70.7】
		県民の皆さんが信頼し、自慢できる病院 (顧客満足度の高い医療の実践)	県内医療過疎地域への貢献	医療過疎地域等への支援件数(件)	3	5	6
			患者及び家族の満足度向上	患者満足度(%)	98.5	96.6	98.4
財務の 視点	経営の健全化	経営の健全化	収支の改善	経常収支比率(%)	105.2	102.8	108.5
				医業収支比率(%)	66.4	66.3	67.5
内部プロセスの 視点	地域に最適な医療体制づくり 地域医療 ・包括的なケア ・多職種連携 ・住民参画型 総合診療医 教育 ・地域医療を担う人材の教育 研究 ・家庭医療、地域医療、医療教育に関する研究	地域に最適な医療体制の構築	医師の充足	医師充足率(%)	100.0	100.0	100.0
			看護師の充足	看護師充足率(%)	100.0	100.0	100.0
			関係機関・地域住民との連携強化	多職種連携による取組件数(件)	18	15	25
		総合診療医を中心とした地域医療	在宅療養の充実	訪問診療、訪問看護等延べ患者数(人)	3,692	4,700	3,289
			救急医療体制の確立	救急患者受入件数(救急車搬送患者を含む)(件)	549	750	420
			予防医療の実践	住民健診、人間ドック、がん検診、特定保健指導受診者数(人)	946	1,200	953
		プライマリ・ケアを担う人材の育成 (地域医療を担う人材の教育)	研修医・医学生の受入体制の充実	研修医・医学生受入延べ人数(人)	598	500	508
			看護師等育成の支援	看護実習生等受入延べ人数(人)	256	350	253
			プライマリ・ケアアセンターへの支援	プライマリ・ケア研修会開催件数(件)	3	3	3
		学習と成長の 視点	職員の意欲と能力の向上 風通しの良い職場づくり	職員の意欲と能力の向上	危機管理対策の向上	危機管理研修等参加率(%)	100.0
職員満足度の向上	職員アンケートの「満足度」の設問での肯定的な回答割合(%)				75.8	—	—

- ・プライマリ・ケアに関するエビデンスを創出します。
- ・継続的な医療の提供のために経営の健全化に取り組みます。

アクションプラン	実績評価	次年度への課題
・総合診療を中心とし、地域ニーズに合わせた外来診療体制の充実を図る。 ・予防医療やリハビリテーション、健康相談などを含む全人的な医療サービスを安定的に提供する。	整形外科診療枠の確保などにより外来患者数は前年度より増加したものの、当院診療圏の人口減、高齢化に伴う医療福祉施設入所等の影響もあり、目標まで届かなかった。	常勤医数や整形外科診療枠等、現行の診療体制の維持を図る必要がある。
・診療所、福祉施設、他の急性期病院等との連携を強化し、紹介患者数の増加を図る。 ・病床状況、平均在院日数等の情報を関係セクションで共有し、目標達成に向けた対策を講ずる。	他の医療機関等との連携強化や院内での情報共有に努めたものの、診療圏の人口減の影響により新規入院患者が減少し、目標を達成できなかった。	他の急性期病院や診療所、福祉施設と連携を強化し、紹介患者数の維持を図るとともに、病床状況、平均在院日数等の情報を関係セクションで共有し、入院患者の増加を図る必要がある。
・へき地医療拠点病院として、県へき地医療支援機構の要請に基づくへき地診療所への代診医の派遣や、津市の要請による診療所への医師派遣を通じた医療過疎地域の診療支援を行う。	津市の要請による診療所への医師派遣を通じた医療過疎地域の診療支援を行うとともに、県へき地医療支援機構の要請に基づくへき地診療所への代診医派遣を行ったことで、目標を達成した。	津市からの要請に引き続き応えるとともに、常勤医体制の充実を活かし、県からの代診医派遣要請に的確に対応していく必要がある。
・患者様アンケートを通じて患者のニーズを把握し、サービス改善に取り組む。 ・接遇研修を実施し、職員の接遇能力の向上を図る。	患者様アンケート等を通じて患者のニーズを把握し、整形外科外来枠の拡大などサービス改善に取り組んだ結果、目標を達成した。	引き続き、適時のサービス改善に取り組むとともに、接遇研修を継続し、職員の接遇能力の向上を図る必要がある。
・受入れ体制の強化や他医療機関との連携等に努め、入院、外来患者数増や単価増により収益増を図る。 ・予防医療受診者の増により収益増を図る。 ・診療報酬に係る請求漏れ、減点対策等に取り組む、収益増を図る。 ・材料費、経費等の節減に努めることにより費用減を図る。	入院収益が増加したことや、整形外科外来2枠開設による外来患者数の維持などにより目標達成できた。	費用、特に給与費の増加が見込まれることから、収益の増加を図るため、患者数の増加に向け、受入れ体制の強化や他医療機関との連携等に努める必要がある。
・総合診療医の育成拠点としての研修環境を整備するなど医師にとって魅力ある病院づくりに取り組む。 ・育児・介護のための休暇等が取得しやすい勤務環境を整備するなど看護師にとって魅力ある病院づくりに取り組む。 ・保健・医療・福祉連携会議の開催等により、関係機関と連携した取組を図る。 ・「顔の見える会」の活動等の取組を通じ、地域住民との連携を図る。 ・地域行事等へのボランティア参加を推奨し、地域貢献に努める。	常勤医師を充実させることで、目標を達成した。 当院の取組に係る情報発信や看護師が働きやすい職場環境づくり等に取り組んだことで、目標を達成した。 保健・医療・福祉連携会議の開催等により関係機関との連携を強化したほか、地域貢献として、地域住民等の要望に応え、出前講座を開催し、目標を達成した。	常勤医師数を維持できるよう、引き続き、医師にとって魅力ある病院づくりや大学などへの働きかけに取り組む必要がある。 全国的に看護師確保は困難を極めており、引き続き、働きやすい環境整備等、人材確保の取組を継続する必要がある。 引き続き、保健・医療・福祉連携会議や出前講座を開催し、地域住民と連携強化を図る必要がある。
・関係医療機関、保健・福祉機関と連携し、訪問診療、訪問看護、訪問リハビリテーション、訪問薬剤指導、訪問栄養指導の件数増を図る。	当院診療圏の人口減、高齢化に伴う医療福祉施設入所等により、在宅医療の対象者が減少していることにより目標を達成できなかった。	対象患者の減少は今後も継続すると見込まれるが、常勤医体制が充実していることを活かし、訪問診療を中心に件数の増加を図る必要がある。
・宿日直体制を維持し、救急患者を受け入れる。 ・救急隊との合同勉強会や救急ホットラインの活用等により連携強化に努める。	人口減や、津地域の他病院における救急体制の強化等の影響により、当院への救急要請件数が減少し、目標を達成できなかった。	常勤医体制が充実していることを活かし、積極的な受入れを継続する必要がある。
・住民健診、人間ドック、がん検診をPRするとともに積極的に受け入れる。 ・健康教室等の予防医療に係る取組を通じ、健康管理に対する意識啓発を図る。	引き続き、出前講座において予防医療の重要性の周知等を行ったものの、人口減や、高齢化に伴う医療福祉施設入所等により、当院診療圏での対象者が減少していると考えられ、目標を達成できなかった。	常勤医体制が充実していることを活かし、積極的な受入れを継続する必要がある。
・指導医による人材育成体制を強化し、研修医、医学生を積極的に受け入れる。	初期研修医の受入数が増加した分、学生の受入は減少したが目標は達成した。	指導医数が限られるなか、初期研修医、学生の受入れを継続するが、教育の質が低下しないことも両立していく必要がある。
・看護師等育成に取り組む機関等と連携し、院内実習等を通じ人材育成の支援を行う。	目標数ほど受入要請がなく、目標を達成できなかった。	引き続き、要請を断ることなく受入れられる看護体制を整え、プライマリ・ケアを担う人材を育成していく必要がある。
・三重県プライマリ・ケアセンターと連携し、プライマリ・ケア研修会の開催を支援する。	プライマリ・ケア エキスパートナース研修会の開催を支援し、目標を達成した。	引き続き、三重県プライマリ・ケアセンターと連携し、プライマリ・ケア研修会の開催を支援していく必要がある。
・カンファレンス等を通じ職員の研究に取り組む意欲を醸成する。 ・研究を行うための職場環境を整える。	積極的に研究に取り組んだことから、目標を達成した。	引き続き、カンファレンス等を通じ職員の研究に取り組む意欲を醸成するとともに、研究を行うための職場環境を整える必要がある。
・職員の医療安全研修、感染管理研修等への積極的な参加を促す。	参加を促すことで全4回とも100%の参加となり、目標を達成した。	引き続き、職員全員が医療安全、感染管理研修を受講できる体制を継続する必要がある。
・職場内での対話等を通じて、職員がやりがいをもって、心身ともに充実して働ける職場環境づくりに努める。	—	職場内での対話等を通じて、職員がやりがいをもって、心身ともに充実して働ける職場環境づくりに努める必要がある。

令和7年度 病院事業庁長マネジメントシート

病院名	三重県病院事業庁						
ビジョン	県立病院として良質な医療を安定的・継続的に提供することで、医療の面から県民と地域の安全・安心を支援します。また、医療従事者						
経営方針	県立病院としての役割や求められるニーズに応じた医療を提供するとともに、病院の健全経営を進めます。 また、医師・看護師等の人材確保・定着を図るとともに、病院機能の充実、業務改善等に取り組みます。 さらに、風通しの良い職場、思いを共有し、共に実践する組織をめざします。						
区分	経営シナリオ	目標	主な成果 (重要成功要因)	業績評価指標	R6 実績	R7 目標	R7 実績
顧客の 視点	安定的、継続的な医療の提供 地域や県民ニーズに応じた医療の提供 良質で安全・安心な医療の提供 患者満足度の高い医療の提供 ●精神科専門医療の提供 ●家庭医療の実践 ●地域に必要な医療体制の整備 ●地域の医療機関等との連携・協力	安定的・継続的な医療の提供	患者満足度の向上	患者満足度 (%)	93.5	95.0	93.9
			県立病院の役割・機能の提供	訪問看護等延べ患者数 (人)	7,593	9,700	6,756
			救急医療の充実	救急患者・緊急対応患者受入件数 (件)	1,046	1,220	898
			地域の関係機関等との連携強化	関係機関等との連携件数 (件)	27	24	34
			医療事故の防止	医療過誤数 (件)	0	0	0
			志摩地域における医療提供体制の整備	志摩病院における入院患者数 (人/日) " 外来患者数 (人/日) " 救急患者数 (人/月)	172.4 243.5 332.2	208.0 309.0 503.0	161.9 243.0 318.1
財務の 視点	県立病院の健全経営	県立病院の健全経営	経常収支比率 (%)	88.8	98.7	97.7	
			経常収支均衡	医業収支比率 (%)	54.5	64.1	54.8
			1日平均入院患者数 (人/日)	226.1	274.0	223.9	
			1日平均外来患者数 (人/日)	230.1	265.7	237.7	
内部プロセスの 視点	医師・看護師など医療スタッフの確保・定着 病院機能の充実、業務改善、革新 危機管理の推進とコンプライアンスの確立	医療スタッフの確保	人材の確保・定着	医師充足率 (%)	87.9	100.0	100.0
			看護師充足率 (%)	100.0	100.0	100.0	
		研修医・看護実習生等の受入れ	研修医・看護実習生等受入延べ人数 (人)	2,517	2,750	2,244	
		業務改善の推進	改善活動の定着	業務改善取組テーマ数 (件)	3	3	3
		危機管理の推進とコンプライアンスの確立	災害医療体制の構築	災害時の医療支援訓練等実施回数 (回)	7	6	6
			リスクマネジメントの確立実践	医療安全委員会の開催回数 (回)	24	24	24
			コンプライアンスの確立実践	コンプライアンス研修会等の実施 (回)	9	9	12
		指定管理者制度導入後の進捗管理	指定管理者による診療体制の充実	管理運営協議会の開催 (回)	2	2	2
学習と成長の 視点	風通しの良い職場づくり チーム力を最大にするコミュニケーションの向上 一人ひとりの職員の専門能力の向上	風通しの良い職場づくり	職員満足度の向上	職員アンケートの「満足度」の設問での肯定的な回答割合 (%)	73.3	—	—
			コミュニケーションの向上	病院現場との定例的な会議の開催 (回/月)	6	6	6
		一人ひとりの職員の力を伸ばす専門能力の向上	専門能力の向上 (スキルアップ)	職員アンケート「プロとして成長しているか」の設問での肯定的な回答割合 (%)	72.8	—	—
			職員の危機管理意識の向上	危機管理研修等参加率 (%)	100.0	100.0	99.8

にとって魅力のある病院づくりを進めます。

アクションプラン	実績評価	次年度への課題
- 患者様アンケートの分析、改善活動 - 医療機関、県民等を対象とした研究会、講演会、セミナー、病院まつり等地域医療の水準向上、開かれた病院運営等の積極的な実施 - こころの医療センターにおける地域生活支援機能の充実や一志病院における訪問診療・訪問看護等の在宅療養支援の充実	- 患者様アンケートを通じて患者のニーズを把握しサービス改善等に取り組み、一志病院では目標を達成したものの、こころの医療センターでは達成できず、全体として目標を達成できなかった。 - 民間事業者との競合や診療圏人口の減少等により、目標を達成できなかった。	- 引き続き、患者様アンケートの実施とその結果分析等により患者ニーズを的確に把握し、満足度向上に向けた対策を講じていく必要がある。 - 引き続き、限られた医療資源を効率的に活用し、在宅医療のニーズに応えていく必要がある。
救急医療の提供体制の確保	こころの医療センターでは積極的に緊急患者を受け入れたことで目標を達成した。一志病院では救急ホットラインを活用しながら初期救急患者を受け入れたが、診療圏人口の減少等の影響もあり目標を達成できなかった。	引き続き、関係機関と連携を図りながら救急患者の受入体制を維持していく必要がある。
- 地域の医療機関や大学、関係機関等との連携・協力関係の取組 - 医療安全管理委員会等での事例収集・再発防止策の検討 - 医療事故防止をテーマとした医療安全研修への職員参加の徹底	- 関係機関との連携会議、研修会及び講座などを積極的に開催し、目標を達成した。 - 医療安全管理委員会等での様々な取組や医療安全研修を行い、目標を達成した。	- 引き続き、地域の医療機関や関係機関との連携強化に取り組んでいく必要がある。 - 医療安全管理委員会等で事例収集・再発防止策の検討を行うとともに、医療事故に係る研修を通して、職員の意識向上に取り組んでいく必要がある。
指定管理者による柔軟かつ迅速な運営のもと、診療機能の維持・充実を図るとともに、地域のニーズに応じた医療を提供	病診連携・病病連携の推進、救急患者の積極的な受入れ及び病床管理の適正化等により入院・外来患者数の確保に取り組んだが、診療圏の人口減少等の影響もあり目標を達成できなかった。	引き続き、志摩地域の中核病院としての役割・機能を担っていくよう、指定管理者と密接に連携し、地域の医療ニーズをふまえながら診療機能の維持・充実に取り組んでいく必要がある。
2病院の医業収支比率の改善 - 入院患者数の確保に向けた取組 - 外来患者数の確保に向けた取組	- 入院単価及び外来患者数の増による医業収益の増や、一般会計繰入金等の増等により、収支比率が前年度より改善し、目標に近づくことができた。 - 精神科初診外来や整形外科外来の増枠により、外来患者数が前年度より増加した。	- 病床管理の適正化等により収益の増加を図るとともに、材料費や経費など費用の縮減に努めていく必要がある。 - 地域のニーズに対応しながら、病病連携の強化やプライマリ・ケアの実践等により、患者の確保に取り組んでいく必要がある。
- 医師確保(県医療保健部との連携、大学等への医師派遣要請等) - 勤務医にとって魅力や働きがいのある職場環境づくり(医師の研修環境の充実、学会等への参加の柔軟化や良好な住環境の確保等) - 看護師の確保・定着のための修学資金制度の周知・活用、看護実習や新人看護師への技術支援体制の充実等	- 大学医局等への医師派遣要請、働きやすい職場環境づくり、専攻医等の受入れ及び研修医・医学生等への病院の魅力発信等に取り組む、目標を達成した。 - 看護師が働きやすい職場環境づくりや病院の魅力発信、適時の看護師採用試験の実施等に取り組む、目標を達成した。	- 引き続き、大学医局等に継続して医師派遣要請を行っていくとともに、医師にとって魅力や働きがいのある病院づくり、研修プログラムの運用、積極的な情報発信などにより、医師確保につなげていく必要がある。 - 取組を継続し、看護師の確保につなげていく必要がある。
- 研修医等の受入体制の確保 - 研修や実習の充実 - 研修指導医、看護実習指導者等の育成	研修医や医学生、看護学生等の実習を積極的に受け入れたが、看護学校における学生数の減少等により目標を達成できなかった。	引き続き、研修生や実習生等を受け入れ、県内の医療人材の育成に貢献していく必要がある。
患者等のニーズに応じた改善、ホームページの充実や積極的な情報発信、紙資料・プラスチックごみ削減の3つをテーマに掲げ、業務改善活動を推進	Wi-Fi導入など患者等のニーズに応じた改善、ホームページの適時更新・充実、積極的な声掛けによる紙資料・プラスチックごみ削減に取り組んだ。	患者等のニーズに応じた改善策を講じ、満足度の高い医療サービスを提供していく必要がある。
- 自然災害等を想定した図上訓練の実施等(各病院2回) - 災害支援体制の確立、院内備蓄の整備・充実 - 医療安全対策・感染対策の充実、マニュアルの適切な運用・不断の見直し・検討 - 個人情報管理等安全確保のための組織の充実 - コンプライアンスの確立に向けた取組の実施等(各所属3回)	- BCP災害訓練等の実施や研修会の参加により、発災時の対応能力の向上を図った。 - 院内の備蓄物資を整備し、災害時の備えを強化した。 - 各病院において医療安全に関する委員会を定期的に開催し、安全な医療を提供する体制づくりに取り組んだ。 - 各所属において過去の発生事例を題材として発生防止と適切な事後対応に係る研修会を実施するなど、コンプライアンスの徹底に取り組んだ。	- 各種研修会や訓練等を計画的に実施し、継続的に災害等発生時における対応力の向上やコンプライアンスの徹底を図っていく必要がある。 - BCPに基づく訓練の実施やマニュアルの継続的な見直しを行うなど、災害への備えを進めていく必要がある。
指定管理者との連携・調整に係る体制づくり	志摩病院管理運営協議会や毎月の業務報告書の聴き取り等を通じて、運営状況を把握し、課題等について協議・調整を行った。	志摩地域の中核病院として、また、県立病院としての役割・機能を担っていくため、引き続き、指定管理者と密接に連携し診療機能を維持・充実させる必要がある。
- 日頃のコミュニケーションや報告・連絡・相談を大事にした明るく風通しの良い職場づくりの推進 - Mieるビーイングシート等を活用した対話の実施	—	職員満足度の向上を図るため、引き続き、明るく風通しの良い職場づくりやMieるビーイングシート等を活用した対話に努めていく必要がある。
現場やコミュニケーションを重視して思いを伝えあい、共有し、共に実践する組織づくり	病院現場を重視する視点、職員間のコミュニケーションを大切に、共に実践する組織づくりに取り組んだ。	情報を共有し課題に共に取り組んでいけるよう、有意義なコミュニケーション機会を創出していく必要がある。
研究・研修環境の整備・充実、研究発表の推進(専門分野での資格取得のための支援、研修体系の整備、研修機会の確保と活かせる環境の整備、研究研修費の確保等)	—	引き続き、職員の専門性や意識の向上に取り組んでいく必要がある。
医療安全研修会等の開催及び職員参加の徹底	医療安全研修会等の開催を通じて、職員の危機管理意識の向上に取り組んだ。	引き続き、事故を防止するため、研修会の開催等を通じて職員の危機管理意識の向上を図っていく必要がある。

【参考】令和8年度 こころの医療センター 院長マネジメントシート

病院名	こころの医療センター		
ビジョン	県民の皆さんのより良いこころの健康をめざし、精神科疾患があっても地域で安心して暮らせるよう、医療のサービス		
経営方針	・精神科の医療倫理を遵守し、患者や家族の皆さんの視点に立った良質で満足度の高い医療サービスを提供しながら、政策的医療や専門的医療、災害医療の取組において、県内の精神科医療における中核病院としての役割を担い、県		
区分	経営シナリオ	目標	主な成果 (重要成功要因)
顧客の 視点		◎重点取組事項	満足度の高い医療の提供
		早期社会復帰の推進	新患者の寛解率の向上 地域生活支援体制の充実
		社会ニーズに応じる精神科専門医療の提供	精神科救急・急性期医療の推進 地域医療機関との連携
			精神科早期介入の推進 県民ニーズの高い精神科医療の取組
財務の 視点		◎重点取組事項	臨床・経営指標に基づいた病院運営の確立
		医業収支改善	経常収支比率、医業収支比率の改善
内部プ ロセスの 視点		◎重点取組事項	経営改善の方向性決定 常時急性期患者受入体制の確立
		医療体制の構築	医師の充足 看護師の充足 災害時医療体制の確立に向けた取組
学習と 成長の 視点		◎重点取組事項	コンプライアンスの徹底
		専門性の向上 三重県の精神科をリードする取組 風通しの良い職場づくり	専門能力を身につけた職員の増加 精神科医療スタッフの育成 職員満足度の向上

を提供します。

健全な病院運営を進めます。
の精神科医療をリードします。

業績評価指標	R7 実績	R8 目標	アクションプラン
患者満足度 (%)	93.5	95.0	・患者様アンケート等を通じたニーズの把握、サービス改善の取組 ・ホームページの改善(見やすさ・分かりやすさの向上、重要情報の適切な配置等)
新患者の寛解率 (%)	73.8	60.0	・早期、急性期医療の充実 ・地域生活支援体制の推進
デイケア・ショートケア延べ患者数 (人)	9,269	12,500	・プログラムの充実により集客を図る取組 ・関連機関への周知の見直し
訪問看護延べ患者数 (人)	3,467	5,000	・利用者の地域生活を支援していくための質の確保 ・事業の方向性の検討
在院3か月以内退院率 (%)	83.3	77.6	・地域の関係機関との連携及び日中活動支援等の充実
家族等にむけた研修会の開催件数 (件)	26	24	・家族にむけた研修会の着実な実施
精神科救急患者・緊急対応患者受入件数 (件)	478	480	・精神科救急患者、緊急対応患者受入体制の確保
障害福祉サービス事業所等との連携取組件数 (件)	9	9	・地域連携ミーティングの開催及び協働事業の開催
医療機関訪問件数 (件)	209	200	・関係性の深い医療機関との連携強化 ・当院の積極的な売り込み
YMSC新規相談件数 (件)	229	200	・早期介入拠点(YMSC-MIE)の充実、AYA世代(思春期・若年層)病棟との連携
アルコール依存症入院患者数 (人/日)	17.0	30.0	・アルコール相談の実施、訪問を通じた他医療機関との連携 ・ホームページや広報誌による情報発信、短期入院などの取組の検討
認知症入院患者数 (人/日)	30.5	40.0	・認知症相談の実施、訪問を通じた他医療機関、施設との連携 ・認知症治療のイメージ、予約の取りやすさのアピール
こころしとこセミナー開催件数 (件)	35	35	・精神科医療取組の広報・啓発、講師の育成等
臨床・経営指標の追加・充実	充実	充実	・臨床・経営指標の追加等、データ分析 ・経営会議等での周知や話し合いによる意識の向上
経常収支比率 (%)	94.4	99.0	・精神科特定入院料の算定 ・病床コントロール等による入院収益の向上
医業収支比率 (%)	52.8	67.6	・収支改善に向けた病院機能の検討 ・検査件数や作業療法件数等の増加の取組 ・経費の削減
1日平均入院患者数 (人/日)	191.4	246.0	・精神科専門治療の充実
1日平均外来患者数 (人/日)	183.6	200.0	・病棟機能の明確化と病棟間の連携 ・オーバードーズ対応など他医療機関、施設との連携
病棟機能の再構築	検討・実施	検討・実施	・新患予約受入体制及び緊急受入体制の強化、クロザピン治療の推進
措置鑑定対応件数 (件)	119	50	・県健康推進課・保健所等との連携、院内救急体制整備
医師充足率 (%)	90.4	100.0	・研修や資格取得へのバックアップ体制を強化するなど医師に魅力ある病院づくりの取組
看護師充足率 (%)	99.4	100.0	・育児・介護のための休暇等が取得しやすい勤務環境を整備するなど魅力ある病院づくりの取組
災害訓練実施回数 (回)	1	1	・震災、感染症及びサイバー攻撃に係るBCPマニュアルの実効性を高める取組
危機管理研修等参加率 (%)	99.8	100.0	・医療安全研修の複数回実施、未受講者への受講勧奨
倫理委員会(研修)開催数 (回)	2	2	・職員の精神科医療における倫理意識向上のための研修の実施
人材育成研修回数 (回)	9	6	・職員のスキルアップのための体系的な院内研修の実施 ・職員表彰制度の継続実施
研修医・看護実習生等受入延べ人数 (人)	1,483	1,900	・院内受入体制の整備 ・研修プログラムの見直し、充実
職員アンケートの「満足度」の設問での肯定的な回答割合 (%)	-	73.0	・タスクフォースによる改善の取組

【参考】 令和8年度 一志病院 院長マネジメントシート

病院名	一志病院		
ビジョン	安心してこの地域で生活し続けられる医療を提供し、全国の医療過疎を解決する病院のモデルになります。		
経営方針	- あらゆるニーズに対応するプライマリ・ケアを実践します。 - 県民の皆さんが信頼し、自慢できる病院を目指します。 - プライマリ・ケアを担う人材を育成します。 - 職員の意欲と能力の向上に努めます。		
区分	経営シナリオ	目標	主な成果 (重要成功要因)
顧客の視点		プライマリ・ケアの実践 (全人的な医療サービスの提供)	かかりつけ患者の増加 入院患者の増加
		県民の皆さんが信頼し、自慢できる病院 (顧客満足度の高い医療の実践)	県内医療過疎地域への貢献 患者及び家族の満足度向上
財務の視点		経営の健全化	収支の改善
内部プロセスの視点		地域に最適な医療体制の構築	医師の充足 看護師の充足 関係機関・地域住民との連携強化
		総合診療医を中心とした地域医療	在宅療養の充実 救急医療体制の確立 予防医療の実践
学習と成長の視点		プライマリ・ケアを担う人材の育成 (地域医療を担う人材の教育)	研修医・医学生の受入体制の充実 看護師等育成の支援 プライマリ・ケアセンターへの支援
		プライマリ・ケアに関するエビデンスの創出 (実践的かつ先進的な研究の実施)	家庭医療等に関する研究の実施
学習と成長の視点		職員の意欲と能力の向上	危機管理対策の向上
		風通しの良い職場づくり	職員満足度の向上

- ・プライマリ・ケアに関するエビデンスを創出します。
- ・継続的な医療の提供のために経営の健全化に取り組みます。

業績評価指標	R7 実績	R8 目標	アクションプラン
1日平均外来患者数 (人/日)	54.1	65.7	・外来枠数維持や整形外科2枠の継続等、地域ニーズに合わせた診療体制の維持を図る。 ・予防医療やリハビリテーション、健康相談などを含む全人的な医療サービスを安定的に提供する。
1日平均入院患者数 (人/日) 【病床稼働率(%)】	32.5 【70.7】	37.0 【80.4】	・他の急性期病院、診療所、福祉施設等との連携を強化し、紹介患者数の増加を図る。 ・病床状況、平均在院日数等の情報を関係セクションで共有し、目標達成に向けた対策を講ずる。
医療過疎地域等への 支援件数(件)	6	5	へき地医療拠点病院として、県へき地医療支援機構の要請に基づくへき地診療所への代診医の派遣や、過疎地域へのオンライン診療を通じた支援、津市の要請による診療所への医師派遣を通じた医療過疎地域の診療支援を行う。
患者満足度(%)	98.4	96.6	・患者様アンケートを通じて患者のニーズを把握し、サービス改善に取り組む。 ・接遇研修を実施し、職員の接遇能力の向上を図る。
経常収支比率(%)	108.5	102.0	・受入れ体制の強化や他医療機関との連携等に努め、入院患者数増や単価増により収益増を図る。
医業収支比率(%)	67.5	65.7	・予防医療受診者の増により収益増を図る。 ・診療報酬改定への対応や請求漏れ、減点対策等に取り組み、収益増を図る。 ・材料費、経費等の節減に努めることにより費用減を図る。
医師充足率(%)	100.0	100.0	常勤医師数を維持できるよう、引き続き、医師にとって魅力ある病院づくりや大学などへの働きかけに取り組む。
看護師充足率(%)	100.0	100.0	育児・介護のための休暇等が取得しやすい勤務環境を整備するなど看護師にとって魅力ある病院づくりに取り組む。
多職種連携による取 組件数(件)	25	15	保健・医療・福祉連携会議や出前講座を開催し、地域住民との連携強化に取り組む。
訪問診療、訪問看護 等延べ患者数(人)	3,289	4,700	常勤医体制が充実していることを活かし、訪問診療を中心に件数の増加を図る。
救急患者受入件数 (救急車搬送患者を 含む)(件)	420	750	・非常勤医師の協力のもと宿日直体制を維持し、救急患者を受け入れる。 ・救急ホットラインの活用等により連携強化に努める。
住民健診、人間ドク ク、がん検診、特定保 健指導受診者数(人)	953	1,200	・住民健診、人間ドック、がん検診をPRするとともに積極的に受け入れる。 ・健康教室等の予防医療に係る取組を通じ、健康管理に対する意識啓発を図る。
研修医・医学生受入 延べ人数(人)	508	500	指導医数が限られるなか、初期研修医、学生の受入れを継続するが、教育の質が低下しないことも両立していく。
看護実習生等受入延 べ人数(人)	253	350	受入要請に対し、断ることなく受け入れられる看護体制を維持していく。
プライマリ・ケア研修 会開催件数(件)	3	3	三重県プライマリ・ケアセンターと連携し、プライマリ・ケア研修会の開催を支援する。
学会、論文等発表件 数(件)	23	20	・カンファレンス等を通じ職員の研究に取り組む意欲を醸成する。 ・研究を行うための職場環境を整える。
危機管理研修等参加 率(%)	100.0	100.0	職員の医療安全研修、感染管理研修等への積極的な参加を促す。
職員アンケートの「満 足度」の設問での肯 定的な回答割合(%)	—	75.0	職場内での対話等を通じて、職員がやりがいをもって、心身ともに充実して働ける職場環境づくりに努める。

【参考】 令和8年度 病院事業庁長マネジメントシート

病院名	三重県病院事業庁		
ビジョン	県立病院として良質な医療を安定的・継続的に提供することで、医療の面から県民と地域の安全・安心を支援します。また、医療従事者にとって魅力のある病院づくりを進めます。		
経営方針	県立病院としての役割や求められるニーズに応じた医療を提供するとともに、病院の健全経営を進めます。また、医師・看護師等の人材確保・定着を図るとともに、病院機能の充実、業務改善等に取り組みます。さらに、風通しの良い職場、思いを共有し、共に実践する組織をめざします。		
区分	経営シナリオ	目標	主な成果 (重要成功要因)
顧客の視点		安定的・継続的な医療の提供	患者満足度の向上 県立病院の役割・機能の提供 救急医療の充実 地域の関係機関等との連携強化 医療事故の防止 志摩地域における医療提供体制の整備
財務の視点		県立病院の健全経営	経常収支均衡
内部プロセスの視点		医療スタッフの確保 業務改善の推進 危機管理の推進とコンプライアンスの確立 指定管理者制度導入後の進捗管理	人材の確保・定着 研修医・看護実習生等の受入れ 改善活動の定着 災害医療体制の構築 リスクマネジメントの確立実践 コンプライアンスの確立実践 指定管理者による診療体制の充実
学習と成長の視点		風通しの良い職場づくり 一人ひとりの職員の専門能力の向上	職員満足度の向上 コミュニケーションの向上 専門能力の向上(スキルアップ) 職員の危機管理意識の向上

業績評価指標	R7 実績	R8 目標	アクションプラン
患者満足度 (%)	93.9	95.0	・患者様アンケートの分析、改善活動 ・医療機関、県民等を対象とした研修会、講演会、セミナー、病院まつり等地域医療の水準向上、開かれた病院運営等の積極的な実施
訪問看護等延べ患者数 (人)	6,756	9,700	・こころの医療センターにおける地域生活支援や一志病院における訪問診療・訪問看護等の在宅療養支援 ※こころ:5,000人、一志:4,700人
救急患者・緊急対応患者受入件数 (件)	898	1,230	・救急医療の提供体制の確保 ※こころ:480件、一志:750件
関係機関等との連携件数 (件)	34	24	・地域の医療機関や大学、関係機関等との連携・協力関係の取組 ※こころ:9件、一志:15件
医療過誤数 (件)	0	0	・医療安全管理委員会等での事例収集・再発防止策の検討 ・医療事故防止をテーマとした医療安全研修への職員参加の徹底
志摩病院における入院患者数 (人/日)	161.9	210.0	・指定管理者による柔軟かつ迅速な運営のもと、診療機能の維持・充実に努めるとともに、地域のニーズに応じた医療を提供
〃 外来患者数 (人/日)	243.0	311.0	
〃 救急患者数 (人/月)	318.1	507.0	
経常収支比率 (%)	97.7	99.7	・2病院の医業収支比率の改善 ・入院患者数の確保に向けた取組 ・外来患者数の確保に向けた取組
医業収支比率 (%)	54.8	65.7	
1日平均入院患者数 (人/日)	223.9	283.0	
1日平均外来患者数 (人/日)	237.7	265.7	
医師充足率 (%)	100.0	100.0	・医師確保(県医療保健部との連携、大学等への医師派遣要請等) ・勤務医にとって魅力や働きがいのある職場環境づくり(医師の研修環境の充実、学会等への参加の促進や良好な住環境の確保等)
看護師充足率 (%)	100.0	100.0	・看護師の確保・定着のための修学資金制度の周知・活用、看護実習や新人看護師への技術支援体制の充実等
研修医・看護実習生等受入延べ人数 (人)	2,244	2,750	・研修医等の受入体制の確保 ・研修や実習の充実 ・研修指導医、看護実習指導者等の育成 ※こころ:1,900人、一志:850人
業務改善取組テーマ数 (件)	3	3	・患者等のニーズに応じた業務改善、ホームページの充実や積極的な情報発信、紙資料・プラスチックごみ削減の3つをテーマに掲げ、業務改善活動を推進
災害時の医療支援訓練等実施回数 (回)	6	6	・自然災害、サイバー攻撃等を想定した図上訓練の実施等(各病院2回) ・災害支援体制の確立、院内備蓄の整備・充実
医療安全委員会の開催回数 (回)	24	24	・医療安全対策・感染対策の充実、マニュアルの適切な運用・不断の見直し・検討 ・個人情報管理等安全確保のための取組
コンプライアンス研修会等の実施 (回)	12	12	・コンプライアンスの確立に向けた取組の実施等(各所属4回)
管理運営協議会の開催 (回)	2	2	・指定管理者との連携・調整に係る体制づくり
職員アンケートの「満足度」の設問での肯定的な回答割合 (%)	—	74.0	・日頃のコミュニケーションや報告・連絡・相談を大事にした明るく風通しの良い職場づくりの推進 ・Mieるビーイングシート等を活用した対話の実施
病院現場との定例的な会議の開催 (回/月)	6	6	・現場やコミュニケーションを重視して思いを伝えあい、共有し、共に実践する組織づくり
職員アンケート「プロとして成長しているか」の設問での肯定的な回答割合 (%)	—	73.0	・研究・研修環境の整備・充実、研究発表の推進(専門分野での資格取得のための支援、研修体系の整備、研修機会の確保と活かせる環境の整備、研究研修費の確保等)
危機管理研修等参加率 (%)	99.8	100.0	・医療安全研修会等の開催及び職員参加の徹底